

荒川ダム群等の現状と今後の見通しについて



浦山ダム(平成27年10月15日撮影)

平成27年10月27日

関東地方整備局

1. 荒川上流4ダム等の現状

(1) 秋ヶ瀬地点上流平均降水量の状況（平成27年10月25日までの降水量）

平成27年4月以降の秋ヶ瀬地点上流域平均降水量は、4月及び5月が平均値を下回りました。5月の降水量は47mm（平均値（昭和40年～平成26年）に対する割合は39%）であり、昭和40年以降の50年間で3番目に少ない値となりました。

10月の降水量は、25日までの累加で24mmとなっています。（10月の降水量の平均値は149mm）（図-1、表-1参照）

図-1 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量

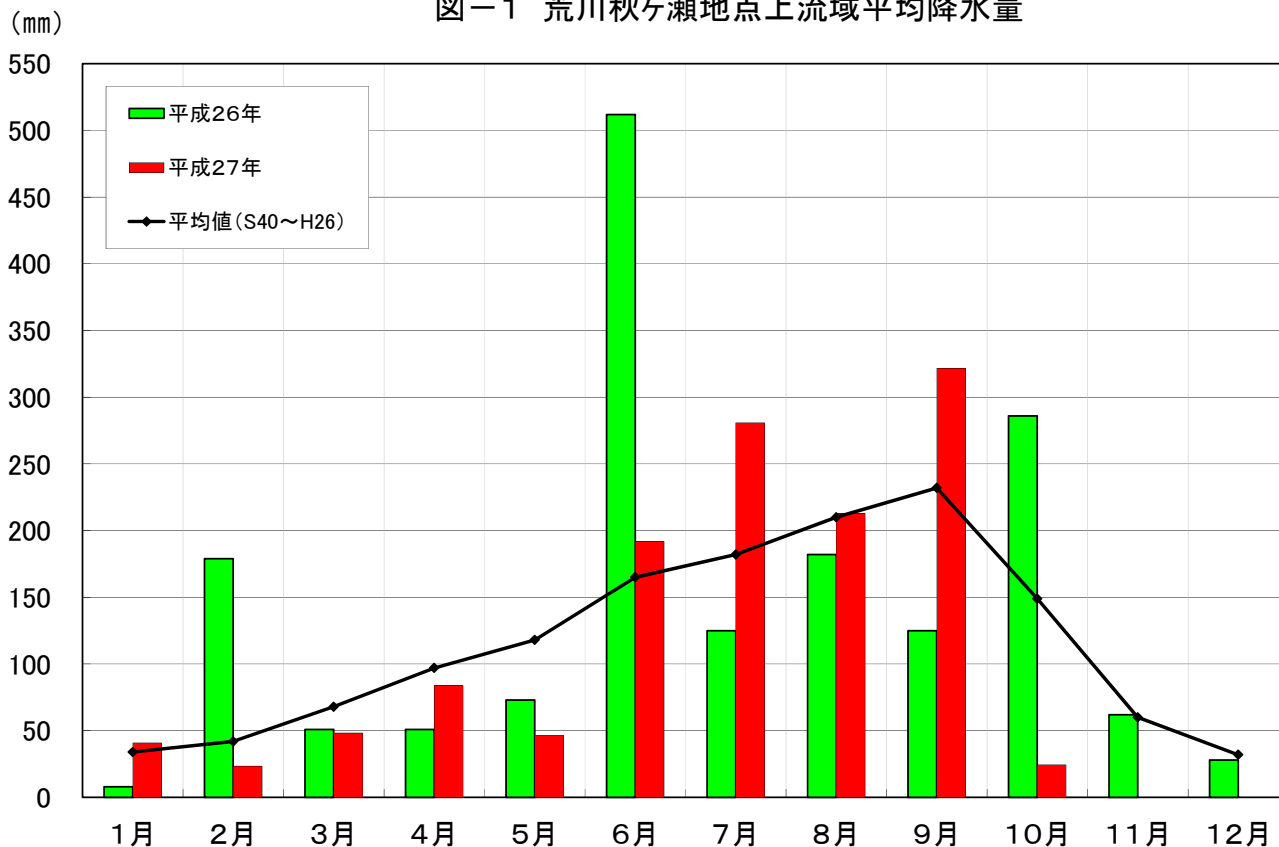


表-1 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（平成27年10月25日まで）

単位(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏渇水
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	利根川・荒川夏渇水
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏渇水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏渇水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏渇水
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川・荒川冬渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏渇水
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249	利根川夏渇水
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682	
平均値(S40-H26)	34	42	68	97	118	165	182	210	232	149	60	32	1,389	
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	24			1,275	
平均値に対する割合(%)	120	56	71	87	39	116	154	101	139	16			92	

※. 荒川取水制限実施月（一時緩和含む）

※. 秋ヶ瀬上流域面積 2,021 km²

(2) 荒川上流4ダムの貯水状況等（平成27年10月26日0時現在）

平成27年の荒川上流4ダムは、4月29日に貯水量1億1,750万m³（貯水率81%）に達し、夏期制限水位に移行した期間も概ね満水で推移しました。

10月26日0時の貯水量は7,218万m³、貯水率50%（貯水量の平均値（平成22年～平成26年）に対する割合は96%）です。

（表-2、図-2参照）

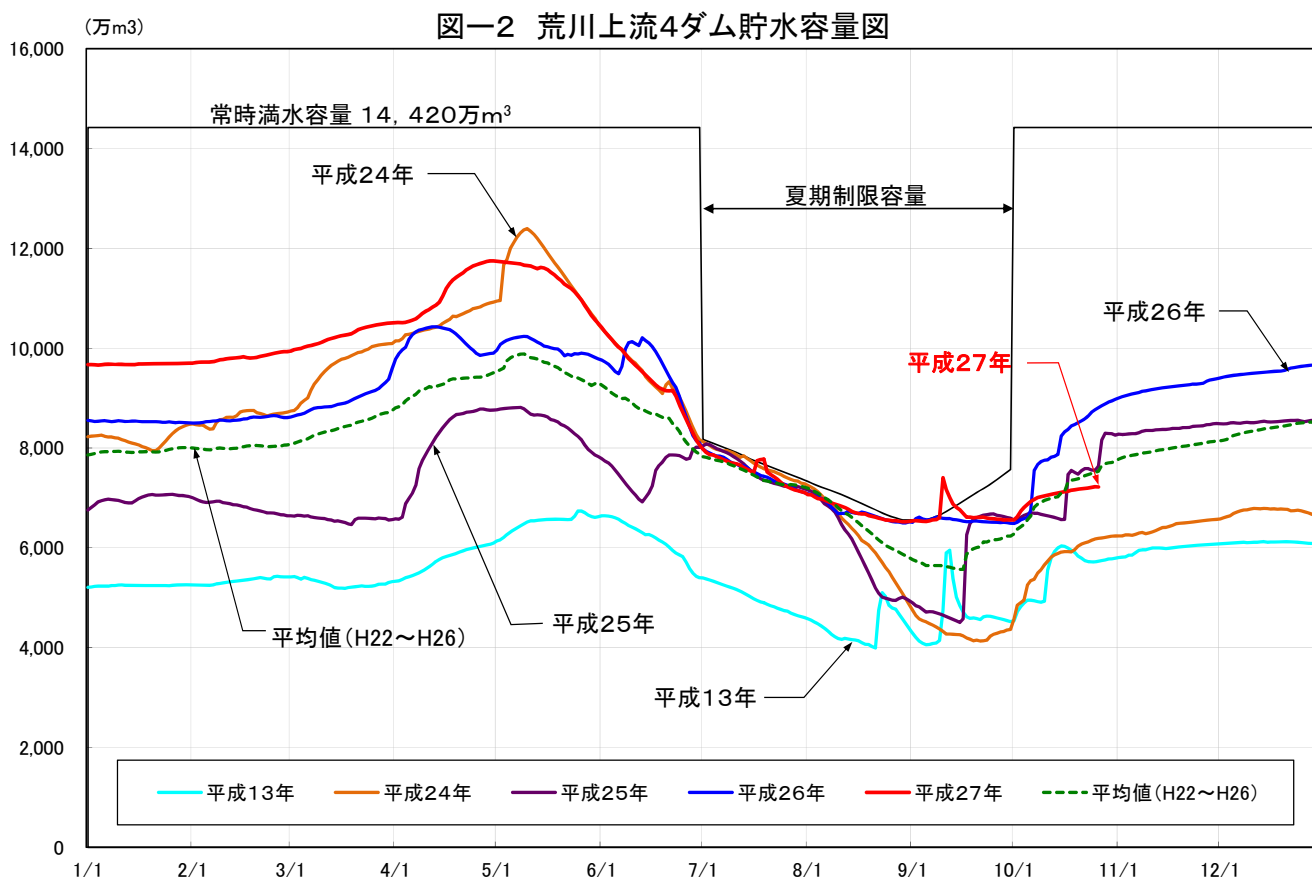
表-2
流4
ダム
量

荒川上
ム貯水

平成2
7年1
0月2
6日0
時現在

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)	前日補給量 (万m ³ /日)
二瀬ダム	2,000	71	4	7
滝沢ダム	5,800	2,675	46	-3
浦山ダム	5,600	3,458	62	-1
荒川貯水池	1,020	1,014	99	3
4ダム合計	14,420	7,218	50	6
4ダム合計の平均値 (平成22年～平成26年)		7,535	(平均値に対する割合 96%)	

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）



2. 今後の見通し及び対策

(1) 見通し

- ① 平成27年10月22日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(10月24日から11月23日までの天候見通し)によると、平年に比べ晴れの日が少なく、向こう1ヶ月の降水量は「平年並」または「多い」確率ともに40%となっています。また、10月23日気象庁発表の3か月予報(11月から1月までの天候見通し)によると、11月の天気は平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は「平年並」または「多い」確率ともに40%となっています。12月も平年と比べ晴れの日が少なく、降水量は「多い」確率50%となっており、1月も平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は「平年並」または「多い」確率ともに40%となっています。

なお、9月25日気象庁発表の寒候期予報(10月から2月までの天候の見通し)によると、平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は「多い」確率50%となっています。

1か月予報(平成27年10月22日発表)

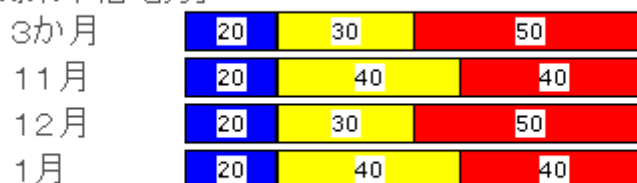


凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3か月予報(平成27年10月23日発表)

【降水量】

[関東甲信地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

寒候期予報(平成27年9月25日発表)

〈冬(10月~2月)の気温、降水量の各階級の確率(%)〉



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

- ② 荒川上流4ダムのうち、二瀬ダムは施設の維持管理に必要な工事を実施するため、貯水量を制限した運用を行っていますが、1月末までには工事制限水位を解除する予定です。

また、一般的に冬期の降水量が少なくなることから、下流域の水需要を満たすためにダムからの補給が予想されます。

(2) 対策

- ① [荒川水系におけるダム群の貯水量の確保]

今後は、荒川流域の降雨状況や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、荒川ダム群の貯水量や降水量の状況、必要に応じて工事の進捗状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

- ② [荒川水系渇水調整協議会の取り組み]

荒川水系渇水調整協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

3. 非洪水期における工事制限水位等について（予定）

